

とまこまいしびじゆつはくぶつかん
苦小牧市美術博物館の
 魅力を伝える

ぴとま

第4号
 2015年3月

二〇一四年十二月二十三日
 (火) から二〇一五年一月

二十五日(日)まで企画展「苦小牧の美術史—苦小牧美術協会とその歩み—」が開かれ、十五点の資料と七十九点の作品が展示されました。

苦小牧美術協会では、一九三九年に苦小牧地方の美術文化の発展、向上を目的に作られたそうです。

「これらの作品の中で目を引かれたのは鹿毛正三さんの《紅葉樹林》という作品です。まわりの木は赤・黄・緑など色が明るいのに対して、絵の奥の方は暗い色になっていたので、奥の方には何があるのだろうという、とても不思議な気持ちになりました。

また、苦小牧の昔の様子が見られる作品も多いので、とてもためになりました。

(的場翔)

《紅葉樹林》は、秋に見た紅葉そっくりで、黄色やオレンジや赤の紅葉の色や、まだ紅葉していない緑色などがかかれています。(山田愛佳)



苦小牧の美術史
 苦小牧美術協会
 とその歩み

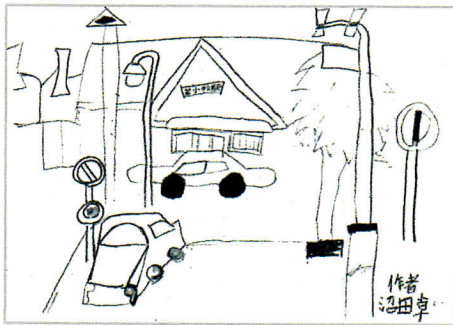
美術史の苦小牧

苦小牧美術協会 とその歩み

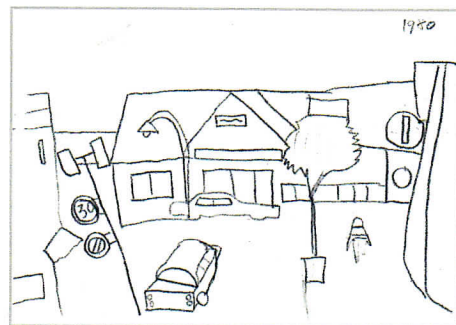
この企画展では、苦小牧美術協会に
関係していた十七人の作家さん—遠藤ミ
マン、川上澄生、太田俊雄、村上弥太郎、鹿
毛正三、能登正智、浅野武彦、小出昭三、
池本良三、二階堂晃、福井正治、菅原勇、
木下知子、内瀉光尚、長澤晃、北川豊、沼
田卓の作品を展示してしました。

私が気に入ったのは、福井正治さんの
《ハマナスのある風景》です。(浜明日美)

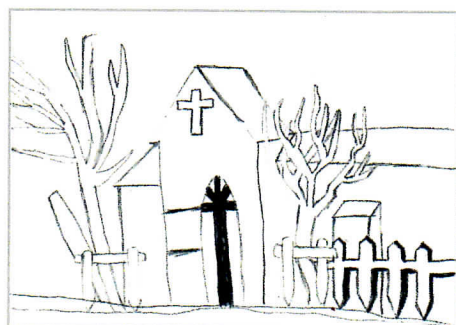
《ハマナスのある風景》は、青い空とハ
マナスの花が平和っぽくて、おだやかな気
持ちになりました。この作品展では、少し怖
い作品が多かったので、より平和っぽく感
じました。(山本舞羽)



沼田卓さんの《苦小牧駅》(黒滝直人、中村創介)



沼田卓さんの《苦小牧の教会》(中村風花、荒井聖)



すくなく目に残ったのは、沼田卓さんが描
いた《苦小牧駅前》。一九八〇年の作品です。
昔の苦小牧駅と町の風景が書かれていま
す。今とはぜんぜんちがう街中でした。油
絵の作品ですが、クレヨンで描いたように
見える絵でした。(黒滝直人)

沼田卓さんの《冬の苦小牧教会》の教会
の雰囲気が入りました。(菊池りの)

沼田卓さんの作品は、建物や風景を記録
しているものが多いです。苦小牧の駅や昔
のお店などが描かれていて、違う作品でも
その位置がわかれば、絵と絵がつながって
いるように思いました。(山本舞羽)

内瀉光尚さんの《顔》は、いろんな顔が
いっぱいあって、ちよっと気持ち悪かった。
だけど絵が見やすかった。(中村創介)

小出昭三さんの《牛群(A)》と《牛群(B)》の絵がおもしろいと思いました。

《牛群(A)》の作品は、牛が一匹しかいなくて、でも大きいから「牛群」というのかなと思いました。牛の絵の中に家の絵が見えました。右上の方に、キジがかいてありました。

《牛群(B)》の作品は近へで見ると、顔がどこかわからないけど、少しずつはなれていくと、牛に見えてきました。牛なのに、どちらの作品にも、オレンジ色が入っていて、牛は白と黒じゃないのかなと思いました。(熊谷陽奈)

能登正智さんの《温泉・家族》は、湖に家族がうつっている様な絵に見えた。すごいわい。

木下知子さんの《花の中》の花は印象的な濃い色で、人の絵の方は、ふわふわしてるとような色しかいてきれいだっただ。

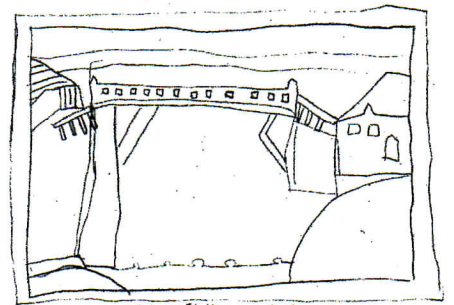
北川豊さんの《黄昏(一)》は赤い色が印象的で人の目のところがかげになっていてこわいと思った。(中村風香)



池本良三 題不詳
(山田和佳)



長澤晃さんの《work 00-1》
(本多こころ)



川上澄生 橋の風景
(山田和佳)



《雪原風紋》も

《サイロのある風景》も木版画。能登さんは、川上さんの影響で版画を始めたんだ。

《サイロのある風景》は王子製紙からのお願いで川上さんが制作した「版画集 古小牧」の中の一つで、この版画集には、《榊前山》や《王子製紙》など古小牧らしい5つの風景が描かれているよ。

そして、浅野さんも、川上さんに版画の指導をもらったんだ！川上澄生さんは、戦時中の疎開で白老にやってきました。古小牧の美術は、疎開で胆振地方にやってきました芸術家たちの影響で、東京などの大都市ともつながりがあったよ。

(福田学芸員)

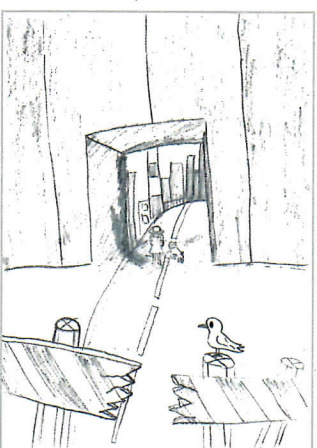
私が作品を見て、一番印象に残った作品は能登正智さんの《雪原風紋》と川上澄生さんの《サイロのある風景》です。《雪原風紋》は一九九〇年の作品で、雪山の雪をいろんな色を混ぜてかいていて、雪に使う青色もいろんな色を混ぜて使っていて、すごいと思いました。《サイロのある風景》は、海の青色に緑が入っていたり、茶色の家に青色が入っていたり、とてもおもしろい絵でした。(亀井川琴)

展示してある絵の中には、版画もありました。中でも《はら》という作品がとてもキレイでした。《はら》は、浅野武彦さんが作った作品です。(黒滝直人)

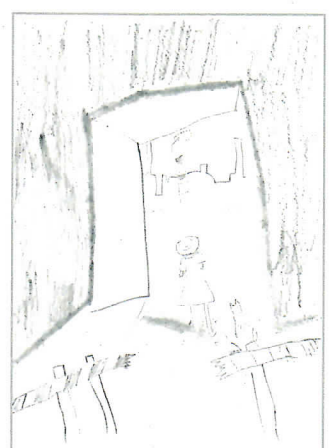


この作品に見入っている
記者が多かったね。「明るい色合いだけど、
こわい。なにかある」とか「あの世とこの世の
境目かな？トンネルのあちらとこちら、どっちが
あの世で、どっちがこの世かな？」なんて想像を
ふくらませている記者もいたよ！
(おごちん)

見えるのかなと
思いました。
(伊藤なつみ)



菅原 勇 さんの《隧道のある風景》(亀卦川菜、本多こころ)



あとから「隧道」の意味を調べたら、
一つ目の意味はトンネル。
二つ目の意味は棺を
埋めるために地中
を掘り下げて墓穴
へ通じる道。は
かみち。とい
う意味があり
ました。この
意味があるか
らきみように
見えるのかなと
思いました。

私は《隧道のある風景》がきみよう
だなと思いました。理由は、描かれて
いる柵の壊れた部分が組み合わないか
らです。それに煙突から煙が出てい
なかったし、柵の奥にも車道が続いて
いたからです。

菅原勇さんの《隧道のある風景》は、
すこひきつけられる感じで、少しあ
やしげな感じでした。(菊池りの)

あみゅーにいったよ! あみゅーにいったよ!

遠藤

の未来!

の未来!



古小牧の芸術・文化の発展に大きな役割を果たし、10年前に亡くなった遠藤ミマンさん。企画展「古小牧の美術史—古小牧美術協会とその歩み—」では、今、古小牧で最も活躍するアーティスト藤沢レオさんが、教育者でもあった遠藤さんの子どもたちへの思いや願いに心を寄り添わせながら、子どもたちと一緒にワークショップを行いました。

十二月二十三日(火)・
祝(午後二時三十分から、
研修室で藤沢レオさんに
よるワークショップ「遠藤
ミマンのロマン!キラキラ
ラの未来!」がありました
た。遠藤ミマンさんが初代
校長を務めた美園小学
校には、遠藤さんが植えた
といわれる大きく育った
木がたくさんあります。大
きくなりすぎた木々を間
伐したものにアルミテー
プをまきつけ、キラキラオ
ブシエにするワークショ
ップです。

会場で、キラキラオブ
シエ作りに参加していた、
山田かおりさんにインタ
ビューしました。米町に
住む山田さんは、「木の
形をそのまま生かして銀
色のテープを貼るのがお
もしろかった。遠藤ミマン
さんが植えた木だと思っ
と、なにかちよっと違う感
じがする」と話してくれま
した。(山田和佳、中村風
香、荒井聖)

まい
とアート
しょうぼう

アートイン・スクール

藤前ふたまえ小学校しょうがっこうの空き教室あききょうしつで、アーティストが作品づくりさくひんに取り組みとプロジェクトおこなが行われました。

このプロジェクトは、トヨタ・子どもとアーティストの出会いあいin吉小牧よしかのまきの一つとして実施され、藤前小だけでなく、豊川小とよかわしょう、美園小みそのしょう、拓進小たくしんしょうの園工すこうの授業でも、藤沢さんふじさわと子どもたちが一緒に作品を作りました。

藤沢レオさんが、十一月十八日から二週間だけ、藤前小学校に転校生としてやってきました。レオさんは子どもの頃、三年生で藤前小を転校してしまっただけで、今回は四年生になりました。転校生の間は、レオさんじゃなくて、「レオ君」と呼んでもだいじょうぶ…

レオ君とやったのは錬金術と言われる、なまりを高価な金に変える技です。今回は、錬金術とちよつと似たこと…捨てられてしまうような物に銀色のテープを貼ってキラキラにすることをやりました。なぜ捨てられる物かという…たとえ捨てられちゃう物でも銀のテープできれいにしたら、大事な物になったり、面白いものになったりするからだそうです。中にはキューピーちゃんを銀にしたやつもあって、キューピーじゃなくなったのもありました。とっても楽しかったです。(荒井聖)



2014年12月25日(木)から28日(日)のあいだ、ワークショップ「遠藤ミマンのロマン！キラキラの未来！」と「アーティスト・イン・スクール」の成果作品が吉小牧市美術博物館研修室で展示公開されました。

美術博物館でのワークショップと藤前小のキラキラオブジェ、豊川小一年生と二年生による「見えないところで見えた雲」、美園小三年生による「間伐材で創造動物」、拓進小四年生による間伐材の「カンタン組木で拓進モニュメント」は、キラキラしていたり、トコトコ歩き出しそうだったり、モコモコしていたり、カラフルだったり、それぞれ楽しい作品が一つの会場にところせましと並べられ、にぎやかな展示となりました。

第4弾!! こども 広報部記者紹介

学芸員と編集長も!

浜明日美記者

沼ノ端小学校6年生で、『びとこま』第一号から参加しているベテランです。作文でもスポーツでも、色々な賞を取ったりしていて、すごくがんばっています。いつもニコニコ笑顔で元気いっぱいです。なんでもできちゃう明日美記者ですが、歴史がちょっと苦手だそうです。

荒井 楓記者

啓北中1年生で、『びとこま』第一号から参加しているベテラン記者です。荒井聖記者のお兄さんでもあります。ヤンチャでイタズラ好きですが、美はイラストがすごく上手くて、れおちんやわこんの似顔絵をかくと、そっくりです。本気を出すと文章もすごくいいものを書きます。

れおちん(藤沢レオ)記者

レオさんは、彫刻家です。小学生のころからアートに興味を持っていたそうです。スポーツも好きで、趣味はサッカー、バスケットボール、登山など。休みの日は、ハリーポッターの映画を見たり、鉄の本を読んだりしています。いつも、明るく笑顔で、やさしく、楽しそうな人です。

福田絵梨子学芸員

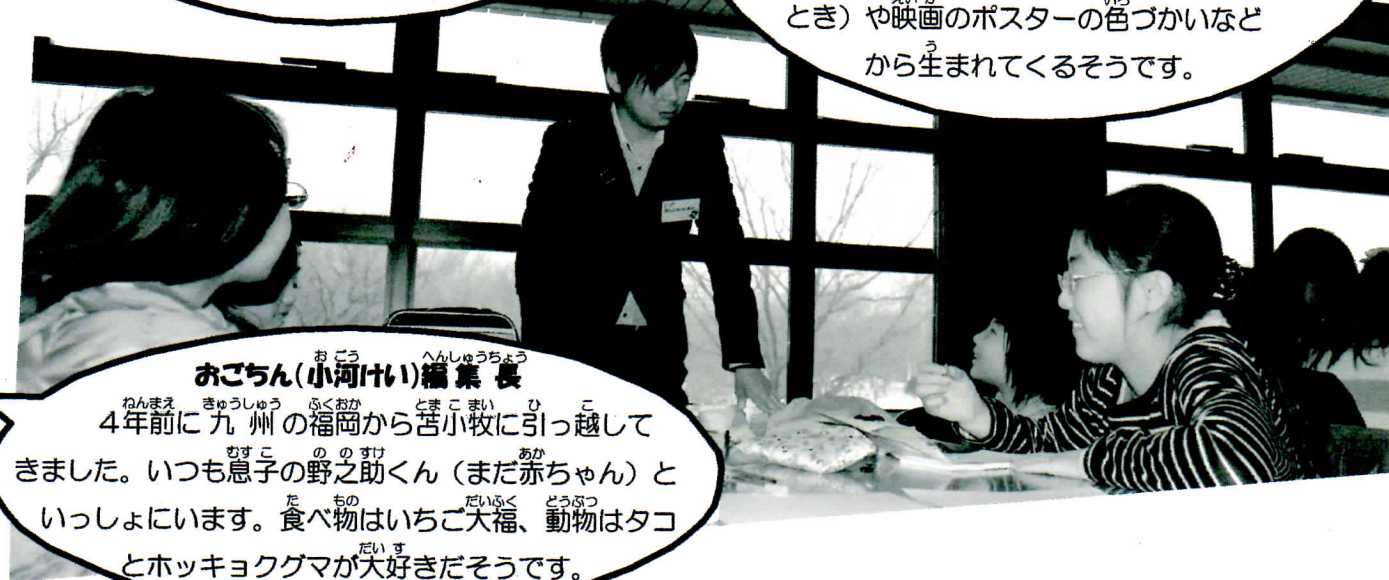
苫小牧市美術博物館で働いて2年です。学芸員になろうと思った理由は、小さいころから博物館が好きだったから。小学生のとき、オスカル・クロード・モネの絵が印象に残って、その大胆な絵に驚いたそうです。この仕事で大事なことは、美術が好きという気持ちをずっと持ち続けることです。

めっちゃん(堀米和克)記者

コンピューターでポスターやチラシなどを作るグラフィックデザイナーです。作っていて、うれしいことは、みんなが自分の作ったものを見て、喜んでくれたり、いいなあと思ってくれること。アイデアは仕事と関係がないとき(特に車を運転しているとき)や映画のポスターの色づかいなどから生まれてくるそうです。

おごちん(小河けい)編集長

4年前に九州の福岡から苫小牧に引っ越してきました。いつも息子の野之助くん(まだ赤ちゃん)といっしょにいます。食べ物はいちご大福、動物はタコとホッキョクグマが大好きだそうです。



わこん(千葉和魂)記者

測量士です。小説も書きます。和魂

なので、「わんこ」と呼ばれています。子どものころ、習字、サッカー、水泳、エレクトーン、バスケットボール、百人一首、そろばん、英会話を習っていました。いつも個性的な服を着ていて、「服そうが派手なのは気分。自分もまわりも楽しくなる」よう、おしゃれに心がけているという、おもしろい人です。

細矢久人学芸員

苫小牧市美術博物館で

働いて3年ぐらい。美術が好きで、作品を作るより、美術の素晴らしさを伝えたくて、学芸員になりました。多くの人が美術に興味を持てる機会を作りたいそうです。趣味は芸術鑑賞ですが、子どものときからサッカーが好きで、サッカー観戦も趣味だそうです。



あみゅーにいったよ!

アイヌ文化を 育んだ自然

—カムイ宿る北の大地—
2015年2月7日(土)~3月22日(日)



北海道は昔、アイヌの人々が暮らしていました。そのアイヌ人は北海道の自然とどう関わって、暮らしていたのでしょうか？ 苫小牧市美術博物館で展示されている、企画展「アイヌ文化を育んだ自然—カムイ宿る北の大地—」を見てきました。そこでわかったことがあります。

まずは地名。苫小牧は、実はアイヌの言葉です。「マロマイ」という川があり、その旧河道、河口を示す「トゥ・マロマイ」からきたのです。

そして、「沼の奥」にある川という意味の「ト・マロマイ」も由来となります。樽前もアイヌの言葉です。「川岸の高いところ」ある

・もの「という意味の「タオロマイ」が変化し、樽前となったそうです。

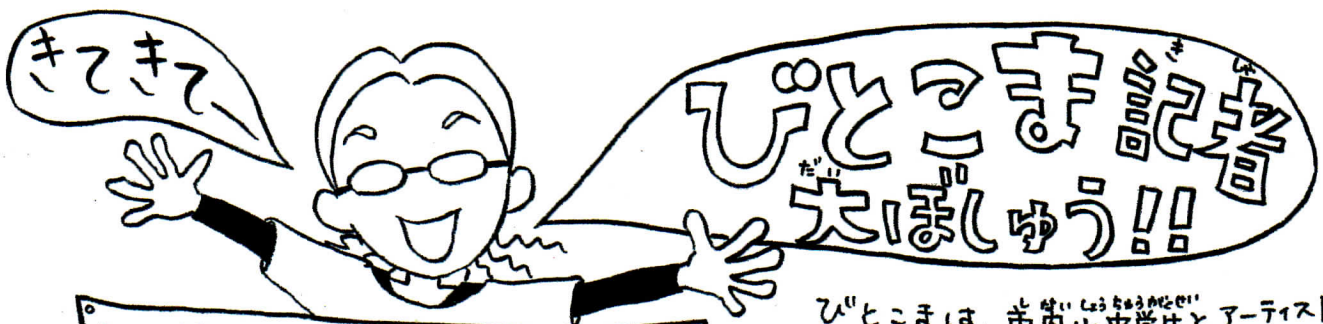
そして、もう一つ、アイヌの人々はどうやって日付を管理していたのでしょうか。それは、何と、植物も利用していたのです。季節「より、植物は変わっていきます。それで、春夏秋冬を分けていたと言われています。

展示されている植物の中に苫小牧で有名な、ハスカップを見つけました。ハスカップはアイヌ語でハッカップといわれていたからハスカップと名前が付いたのです。

アイヌの人々が自然と深く関わりながら暮らしてきたことがすばらしいと思いました。(浜明日美)

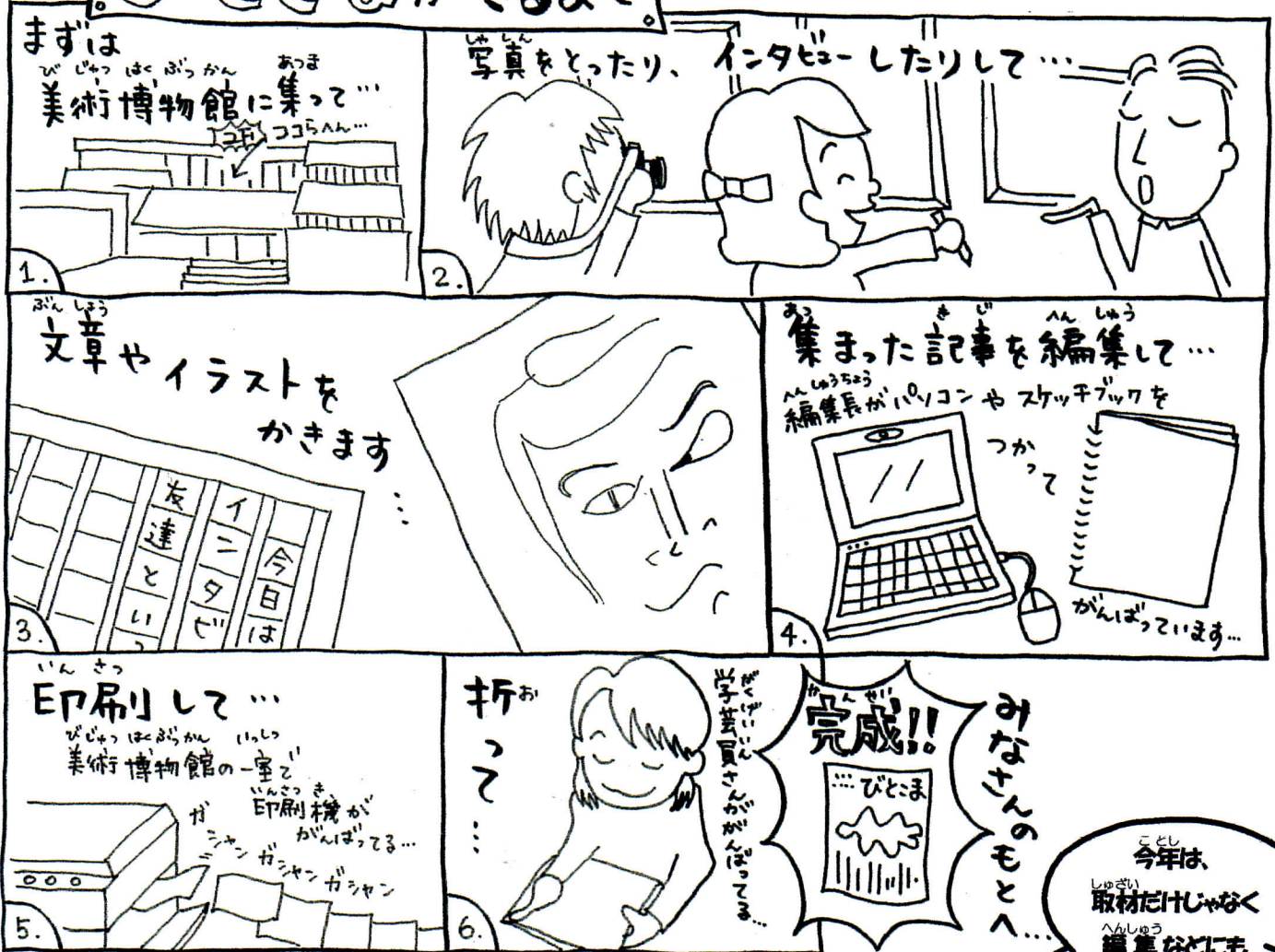
アイヌ語の地名は、その場所の地形の持ちようやその土地でとれるもの、その土地の利用の仕方などから付けられているんだって。だから、アイヌ語の地名をじっくり探ると、昔のその土地の様子や自然環境について知るヒントになるんだって。

(おごちん)



びとこまができるまで

びとこまは、市内小中学生とアーティストたちがついています。2015年度も新しい記者をぼしゅうします。



今年は、取材だけじゃなく編集などにも挑戦してもらいます！ますます面白くなるびとこま！
君も参加しませんか？

- (1) 募集期間 : 平成27年4月21日(火)～平成27年5月5日(火)
9:30から電話にて受け付けます。先着順。定員になり次第締切ります。
- (2) 定員 : 20名
- (3) 対象 : 小学校3年生から中学生
- (4) 活動期間 : 平成27年5月～平成28年2月 ※月一回程度。一回目の活動は5/23(土) 10:00から
- (5) お申し込み : 苫小牧市美術博物館 TEL: 35-2550 FAX: 34-0408

びとこま第14号
 発行日 : 2015年3月
 発行 : 苫小牧市美術博物館
 製作 : 苫小牧市美術博物館、こども広報部、NPO法人榊前artyプラス
 取材 : 荒井 楓、荒井 聖、伊藤 なつみ、菊池 りの、亀卦川 菜、熊谷 陽奈、熊谷 理菜、黒滝 直人、中村 創介、中村 風香、浜 明日美、本多 こころ、的場 翔、麦島 怜奈、山田 愛佳、山田 和佳、山本 舞羽
 編集 : 小河 けい(NPO法人榊前artyプラス)